

流通経済大学での産学連携による ロジスティクス人材育成の取り組み

—サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラムの検討結果を中心に—

Joint Effort of Industry and Academia for Human Resource
Development Programs of Logistics at Ryutsu Keizai University



矢野裕児：流通経済大学流通情報学部教授

略 歴

1980年横浜国立大学工学部建築学科卒業。82年同大学院修了。89年日本大学博士後期課程修了。工学博士。日通総合研究所、富士総合研究所を経て、1996年4月から流通経済大学流通情報学部助教授。2002年4月から現職。

流通経済大学流通情報学部では、従来から学部生、大学院生向けの産学連携によるロジスティクス人材育成のあり方について検討してきた。その取り組みが評価され、2008、2009年度の2ヵ年にわたって、経済産業省の産学連携人材育成事業としても認定されたところである。本稿は、産学連携による「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」の検討結果、そして2010年度から正式に開講した人材育成プログラムの概要をまとめたものである。

1. 産学連携によるロジスティクス人材育成プログラム構築の背景

日本の大学生で、ロジスティクスという言葉がどれほど知っているのだろうか。あるいは物流も含めて、興味を持つ学生がどれだけののだろうか。残念ながら、非常に少ない。その大きな理由の1つとして、会社での就労経験が無い学生にとって、物流、ロジスティクスは、身近なものではなく、興味を持つ機会が少ないことが挙げられる。そのよう

な学生においては、一般の講義形式の授業だけでは、専門知識を教えても、重要性がなかなか伝わらない、実感として分かりにくいという問題点を抱えている。ロジスティクスのイメージがわからず、考え方を深く理解することが難しく、同時に、ロジスティクスのおもしろさについても、認識されにくいのが現状である。

本学部では、ロジスティクスに興味を持ち、かつ専門的な知識を有する優秀な人材を育成し、社会に輩出することを目指している。そのため、企業実践系科目を主体とした産学連携によるプログラムを開発し、従来の社会科学、情報・工学系科目と体系的に、融合することによって、より学修効果があるカリキュラム構築の検討を行った。検討にあたっては、業界団体、企業のロジスティクス関係者と大学教員が検討委員会を設けた。

2. ロジスティクスに関するコース制の導入

本学部では、ロジスティクスに関する専門

の物流マネジメント、国際物流の2つのコースを、2010年度から正式に設置した。物流マネジメントコースは、ビジネス系の物流、ロジスティクスを専門的に扱うコースである。各企業の経営戦略において、欠かせないロジスティクスの考え方を学ぶ。国際物流コースは、ビジネス系の国際物流、グローバル・ロジスティクスを専門的に扱うコースである。コースの設置によって、学生は、ロジスティクスに関する知識を体系的に学ぶことが可能となっている。また、各コースにおいて、産学連携科目は重要な柱となっている。

3. 産学連携によるプログラムの意義

まず学生に、ロジスティクスがあらゆる企業の活動、都市活動、そしてわれわれの生活に密接に関わっており、支えていること、さらにその仕組みの面白さを伝え、興味、関心を持たせることが重要である。さらに、実際の企業の動きを学ぶことによって、ロジスティクスの全体像を理解しやすくし、かつ他の講義科目と相乗的に学修効果を上げ、ロジスティクスの専門知識を習得させることが狙いとなる。また、ロジスティクスは、常に企業レベルで大きく変化しており、企業の新しい情報を学修することによって、新たなロジスティクスの考え方を研究するきっかけになることが考えられる。

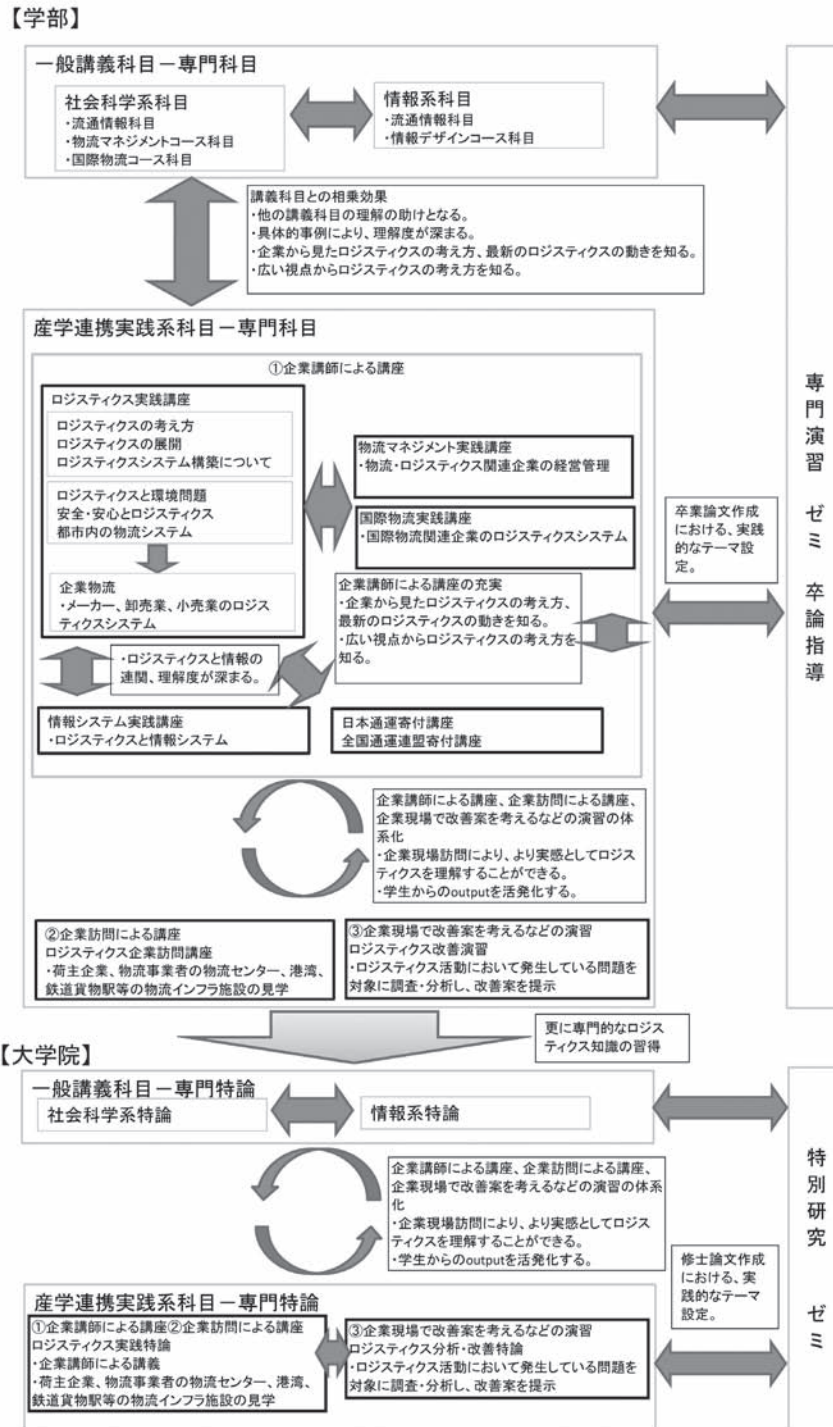
このように、産学連携の内容は、ロジスティクスに興味を持たせる、効果的に専門知識を習得する、新しい企業動向を学び研究のきっかけとするという3つの段階に対応しようとするものである。

4. 産学連携による実践系科目の構成

流通情報学部では、ロジスティクスの基礎となる経営学、マーケティング論、情報リテラシー関連の科目がある。そして、ロジスティクスのビジネス的側面の知識を学ぶロジスティクス概論、流通概論、ロジスティクス・システム論、ロジスティクス・ビジネス論、グローバル・ロジスティクス論、流通情報システム論などの科目がある。さらに、ロジスティクスの数理的側面を学ぶOR基礎論、物流計画論、サプライ・チェーン・マネジメント論などの科目がある。さらに、今回検討した産学連携による実践系科目を柱として加えることによって、より実践的かつ学修効果があるカリキュラムを構築したのである。

産学連携による科目は、①企業講師による講座、②企業訪問による講座、③企業現場で改善案を考えるなどの演習で構成される。具体的には、企業講師による講座として、物流マネジメント実践講座、国際物流実践講座、ロジスティクス実践講座、情報システム実践講座、日本通運寄付講座、全国通運連盟寄付講座、企業訪問による講座としてロジスティクス企業訪問講座、企業現場で問題発見をし、改善案を考えるなどの演習として、ロジスティクス改善演習の各科目がある。その全体像は図-1のとおりである。客員講師は、荷主企業、物流企業、業界団体、コンサルタントなど多岐にわたり、2010年度は、約40名となっている。

図-1 産学連携によるロジスティクスプログラムの全体像



5. 産学連携による実践系科目に対する学生の評価

産学連携科目については、昨年度から試験的に開講している。学生からは、「ロジスティクスが、経済、産業活動や各企業の経営活動

において欠かせないものであることが、企業の第一線で活躍中の企業の経営者・実務家等の講師から、事例を取り上げながら学ぶことによって、理解が進んだ」という意見が多く聞かれた。また、ロジスティクスのおもしろ

さを感じた学生も多かった。理論として学んだことが、企業でどのように使われているかを知り、理解が深まると同時に、現場での最新の取り組みが紹介され、受講する学生にとって大きな刺激となっている。具体的事例が多く、映像による視覚教材を使用されるなど、学生からは理解しやすかったという感想も多かった。同時に、企業講師の、ロジスティクスのおもしろさ、そして知識を、少しでも若い人に伝えたいという情熱、熱心さを感じた学生も多かった。

このように、学生のロジスティクスに対するおもしろさ、理解を深めるのに、本プログラムの産学連携科目は非常に有効であったと評価できる。企業講師の話には興味を持って、他の講義科目の理解の助けとなったという回答も多く、大学教員が担当する他の講義との相互補完という点でも効果を挙げている。

ロジスティクスは、まさしく現実の社会を対象とし、実践的なアプローチを要求される分野である。産学連携プログラムでの、物流の実際の現場の事例、最新の事例の紹介を含めた講義は、学生にロジスティクスに対する興味を湧かせ、ロジスティクスの理解を深めるのに役立ち、魅力あるものとなっている。

6. 今後の展開

今後は、産学連携の取り組みをいかに継続的に実施していくのか、そしてさらにより良いプログラムとして完成させていくかが、大きな課題となる。企業、企業講師と大学が、常に情報交換をし、プログラムを実施していくことが必要であり、そのために重要な役割

を果たすのが、企業、企業講師と大学の継続的な組織体制、「ロジスティクス産学連携コンソーシアム」の構築である。このコンソーシアムについては、2010年度から正式に、立ち上げることが決定している。業界団体、企業の委員を中心に構成する予定であり、効果あるプログラム開発、維持のために、関係者が情報を共有し、常に目標が達成できているか、その評価、見直しも含めて実施していくものである。

ロジスティクスをより高度に展開させていくためには、人材育成が重要である。若い人材に、ロジスティクスに対する興味を持たせ、育成し、日本のロジスティクスを発展させていくためには、企業と大学が連携していく事が欠かせない。そのためにも、この取組をさらに発展させていく予定である。最後に「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」の委員会で、活発なご議論をいただいた業界団体、企業の各委員に感謝する次第である。

注：「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」の報告書の詳細は、<http://www.rku.ac.jp/renkei/index.html> を参照されたい。